

「安倍首相の真珠湾訪問」

2016年12月28日

安倍首相は真珠湾を訪問した。謝罪ではなく慰霊であると力説していた。この訪問に対し、オリバー・ストーン監督はじめ米日韓加中英豪沖台の学者、ジャーナリストなど、53名が安倍首相の歴史認識を問う公開質問状を提出した。貴重な質問状なので転載したい。

真珠湾訪問にあたっての安倍首相への公開質問状 2016年12月25日

親愛なる安倍首相、

安倍首相は先日、1941年12月8日（日本時間）に日本海軍が米国の海軍基地を攻撃した際の「犠牲者を慰霊する」目的で、12月末にハワイの真珠湾を訪問する計画を発表しました。実際のところ、その日に日本が攻撃した場所は真珠湾だけではありませんでした。その約1時間前には日本陸軍はマレー半島の北東沿岸を攻撃、同日にはアジア太平洋地域の他の幾つかの英米の植民地や基地を攻撃しています。日本は、中国に対する侵略戦争を続行するために不可欠な石油や他の資源を東南アジアに求めてこれらの攻撃を開始したのです。米日の開戦の場所をあなたが公式に訪問するのが初めてであることから、私たちは以下の質問をしたく思います。

1) あなたは、1994年末に、日本の侵略戦争を反省する国会決議に対抗する目的で結成された「終戦五十周年議員連盟」の事務局長代理を務めていました。その結成趣意書には、日本の200万余の戦没者が「日本の自存自衛とアジアの平和」のために命を捧げたとあります。この連盟の1995年4月13日の運動方針では、終戦50周年を記念する国会決議に謝罪や不戦の誓いを入れることを拒否しています。1995年6月8日の声明では、与党の決議案が「侵略的行為」や「植民地支配」を認めていることから賛成できないと表明しています。安倍首相、あなたは今でもこの戦争についてこのような認識をお持ちですか。

2) 2013年4月23日の国会答弁では、首相として「侵略の定義は学界的にも国際的にも定まっていない」と答弁しています。ということは、あなたは、連合国およびアジア太平洋諸国に対する戦争と、すでに続行していた対中戦争を侵略戦争とは認めないということでしょうか。

3) あなたは、真珠湾攻撃で亡くなった約2400人の米国人の「慰霊」のために訪問するということです。それなら、中国や、朝鮮半島、他のアジア太平洋諸国、他の連合国における数千万にも上る戦争被害者の「慰霊」にも行く予定はありますか。

首相としてあなたは、憲法9条を再解釈あるいは改定して自衛隊に海外のどこでも戦争ができるようにすることを推進してきました。これがアジア太平洋戦争において日本に被害を受けた国々にどのような合図として映るのか、考えてみてください。

アジア太平洋戦争を「侵略行為」や「植民地支配」ではなく、「日本の自存自衛とアジアの平和」のための戦争と認識しているのか。対中国・アジア諸国との戦争を侵略戦争と認めないのか。真珠湾攻撃の犠牲者を慰霊するのなら、はるかに上回るアジア諸国の戦争被害者の慰霊に行く予定はあるのか。米国に追従し、戦争する国を目指す安倍首相に対し、アジア諸国への戦争責任を果たせという警告である。全く同感である。

質問状を提出した学者、ジャーナリストたちは世界的に著名な方々である。その中に、横浜港南台教会で講演して下さった関東学院大学の林博史教授、恵泉女子大学の内海愛子名誉教授、また、社会委員会で企画して観た「日本国憲法」を作ったドキュメンタリー映画監督のジャン・ユンカーマン氏なども加わっている。